

コラム 相談室の窓から

平成29年11月号

先日、地域の指導者をお招きしてフラワーアレンジメント教室を行いました。キキョウを主体に秋の草花を使ったアレンジメントです。全員同じお花を使っているのに、すべて違う作品が出来上がり、不思議とその人の個性がよくあらわれていました。とてもとても楽しく心が潤うひとときでした。来月はクリスマス用のフラワーアレンジメントに挑戦する予定です。



我が子がこだわりの強い子だったら？

小学校中学年のEくんはとてもこだわりの強い男の子です。食事の好き嫌いが激しくにおいにも過敏です。給食はほぼ食べられません。また、洋服はニットやタートルネック、ジーンズなどは嫌がり、一年中半袖Tシャツ半ズボンで過ごしています。上履きを履くことも嫌いです。暑さ寒さに敏感で、湿度が高い日は極端にいらだち友達とトラブルを起こしてしまいます。音にも敏感に反応し、学期の練習などはとても嫌がります。コミュニケーションの点でも問題があります。例えば、お母さんが「いつまでゲームしているの！」と怒ったことに対して「〇時まで。」と答えてしまいます。先生が「そんなに騒ぎたいなら廊下に出なさい。」と言ったところ、本当に出て行ってしまったこともあります。友達との関わりも少ないのですが、Eくんはあまり気にしていません。

○ 自閉症スペクトラム障がい・広汎性発達障がいかな？と考えてみましょう

発達障害者支援法第二条では、『発達障害』とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」と規定しています。9月号のADHD、10月号のLD同様に、自閉症や広汎性発達障がいは、子供が学校生活不適應をお

こしやすい障がいです。

特に、話し手の意図を想像して解釈することが苦手なために、言葉そのままに受け取りトラブルになったり誤解を招いたりします。また感覚が過敏なので、ちょっとしたことでも不快感をあらわにし、集団生活に適応できなくなってしまうます。

お子さんが、こだわりが強くコミュニケーションの点でも問題を抱えているようなら、早期に専門家と相談してみましよう。

○ こだわりはこだわりとして認めましよう

その上で、まず、Eくんのこだわりは「安心できる世界、大事にしたい世界」ととらえましよう。学校生活上支障のない範囲なら、こだわりを許容します。その範囲はどこまでなのかを、保護者と先生がよく話し合うことが必要です。また、そのためには、Eくんの繊細さを周囲の子供たちに理解してもらうことも大事です。

こだわりを認める際は、約束もします。満足して終われる条件や時間を区切ること、次の活動に移る前に予告のサインを出すこと、などです。

ただいつまでも許容されるわけではありません。こだわりを認めてもらうのは、あくまでも特別な配慮であって、どんな場合どんな場所でも可能なわけではありません。ご家庭では、違和感を感じやすい感覚を和らげていく訓練や豊かな体験活動をとおして心地よい思いを積み重ねるなどの工夫をしていかなければなりません。

○ 社会生活に適応するためにコミュニケーション能力を身につけさせましよう

社会生活を営む点で最も重要なことは、他者とのコミュニケーションです。自閉症の大きな課題は、相手の考えが読めない、話し手の意図が理解できない、他者への関心が低い、と言う点にあります。いわゆる「空気の読めない子」です。

Eくんが社会的に自立していくためには、実用的なコミュニケーションスキルを身につけていくことがきわめて重要になります。

コミュニケーションは、あいさつから始まります。おうちの方が自ら率先して手本となり、多くの方とあいさつしそれをまねさせることから始めましよう。

ごっこ遊びや見立て遊びは、イメージーションを豊かにします。もう中学年なのに、と思わずに一緒に遊ぶことから始めましよう。

また、自閉症の子供は「はじめて」に弱いので、あらかじめイラストや写真でイメージがわくように説明したり、どんな手順で進んでいくのかを箇条書きにして予想できるようにしたりするのもよいでしょう。林間学校や修学旅行などは、可能ならば事前に同じコースを下見させると安心して参加することができます。